

京都御苑ニュース



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連続。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑 番地
電話 075-211-0304
財団法人 国民公園協会
京都御苑 木村 博司
編集
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は100%再生紙を使用しています。

夏

京都御苑
梅雨～晩夏のきのこ
佐野 修治

夏にきのこが生える？
ほとんどの人は「きのこは秋」と思い込んでいるようです。

秋に匹敵するほど多くのきのこが発生する時期は、実は「梅雨から初夏」なのです。京都御苑の昭和時代からの約20年間の発生種数を調べると、九月十月の約二六〇～二八〇種

に次いで、六月七月は約二三〇～二四〇種と大差ありませんでした。発生量はその年の雨量と気温に大きく左右されますが瞬間的にはむしろ梅雨期の方が多いような気がします。



ツブカラカサタケ 落ち葉は菌に分解されて土に戻る

六月、梅雨の走りが始まるとテンゲタケ(天狗茸)の仲間、ツルタケ(鶴茸)やテンゲツルタケ(天狗鶴茸)が、大型のアンズタケ(杏茸)も緑の草陰に現われます。梅雨の長雨後の苑内を歩くと一夜で身を溶かすヒトヨタケ(一夜茸)の仲間が傘を黒く溶かして黒インクのような液体となつて足元に滴り落ちていく姿に遭遇します。小さな透き通るような薄い傘を持つツブツブヒメヒガサヒトヨタケ(小粒姫目傘一夜茸)もその仲間です。傘の裏がヒダではなく、管孔という丸い穴のイグチ(猪口)

の仲間が発生するものもこの時期です。偽つくと瞬間に鮮色に変化するイロガワリ(色変わり)、白い乳液を出すチチアワタケ(乳持茸)、黄色いヒダがあるのにイグチ類のきのこにヒダタケ(黄髮茸)の仲間も顔を出します。珍しい冬虫夏草の一種ハチアブラゼミクケ(花油蟬茸)や、変形菌の一種サビムラサキホコリ(錆び紫埃)などの粘菌類も雨を待つて成長します。そしてキクラゲ(木耳)の仲間は

雨降りの日が観察チャンスです。顔を雨粒に打たれながら榎や楠などの広葉樹を見上げる、広がつた枝先にゼラチン質の半透明のキクラゲ(木耳)が逆光に鈍く輝いて美しい光景に出会えます。地上で縁取り様に大型で少し硬いアラゲキクラゲ(粗毛木耳)や、地面に落ちた枝には黒いゼラチン状の塊のようなヒメキクラゲ(姫木耳)も容易に見つけられます。市街地では珍しい苑内のモミ林にもオオツブライタケ(大蓬菜茸)が、列に並んで発生することがあります。七月祇園祭のお囃子が京都市中に響く頃、今年も苑内はこの大発生期を迎えるでしょう。芝生にはムラサキ

ナギナタタケ(紫殿月茸)が、面に広がって、チャタマゴダケ(茶巾茸)が菌輪を描き、アクロツルタケ(養老茸)やイボテングタケ(疣天狗茸)が童話の世界に誘い、コウジタケ(麹茸)やニガイクチ(苦猪口)の仲間も発生します。草地にはピンタケ(匂い小紅茸)や色とりどりのカワリハツ(愛わり初)、また、白いツチカブリ(土被茸)が地面を持ち上げて顔を出し、小さなギツネ

ノボボカサ(雲の囃子)や、食パンのような形のノウタケ(脳茸)、お饅頭のようなセシヨウロ(偽松露)の仲間が可愛らしい姿を見せてくれます。苑内の落ち葉や落葉を集積している小山には白い大型のツブカラカサタケ(糞唐草茸)が大量発生し、落ち葉を一緒に分解していきます。倒木や切株にはウツボホコリ(雲霧茸)、カワラタケ(瓦茸)、スエヒロタケ(哀草茸)、マサヤタケ(豆精茸)が観察られます。また、赤松の根元にオレンジ色(成長期)のカイメンタケ(海綿茸)が発生します。季節限定の冬虫夏草、クモクケ(蜘蛛茸)も苑内の樹木などで観察できます。「南無熊楠」の研究で有名な変形菌もウツボホコリ、シロウツボホコリ、アオモリホコリ、マオモリホコリなど、目を凝らして観察すれば眼や鼻に出現していることに気がつくでしょう。このように夏にも「きのこ」は

御苑内南西部に位置する九条池にある所には置物がおいてある。御苑の方から「あんなに置ける所はない」というお話が聞こえてきます。アオサギというサギの仲間です。嘴が首、足等が長く大型のため、よくツルに間

違えられますが、ツルの仲間が、首を伸ばして飛翔するのに対して、アオサギは首を曲げて飛翔するので、飛んでいると、ツルとの違いがわかります。アオサギの和名の由来でしようか、背中は灰色がかつた青みがあります。さて、アオサギは主に魚類や水生の生き物を捕っています。同じサギの仲間のコサギは獲物を追い回したり、追いかけたりと積極的、アオサギは獲物がそばに寄ってくるのを待つ、待ち伏せタイプであるため、前述した置物のように動かさないでいるのです。このアオサギ

御苑の風景 九条池の置物



ゴイサギ

また、赤松の根元にオレンジ色(成長期)のカイメンタケ(海綿茸)が発生します。季節限定の冬虫夏草、クモクケ(蜘蛛茸)も苑内の樹木などで観察できます。「南無熊楠」の研究で有名な変形菌もウツボホコリ、シロウツボホコリ、アオモリホコリ、マオモリホコリなど、目を凝らして観察すれば眼や鼻に出現していることに気がつくでしょう。このように夏にも「きのこ」は

京都御苑管理事務所 普及指導企画官

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわぬようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

色を傘を広げます。小さな黄色い漏斗型をした傘を持つヒナアンズタケ(雛杏茸)、時には大型のアンズタケ(杏茸)も緑の草陰に現われます。梅雨の長雨後の苑内を歩くと一夜で身を溶かすヒトヨタケ(一夜茸)の仲間が傘を黒く溶かして黒インクのような液体となつて足元に滴り落ちていく姿に遭遇します。小さな透き通るような薄い傘を持つツブツブヒメヒガサヒトヨタケ(小粒姫目傘一夜茸)もその仲間です。傘の裏がヒダではなく、管孔という丸い穴のイグチ(猪口)

の仲間が発生するものもこの時期です。偽つくと瞬間に鮮色に変化するイロガワリ(色変わり)、白い乳液を出すチチアワタケ(乳持茸)、黄色いヒダがあるのにイグチ類のきのこにヒダタケ(黄髮茸)の仲間も顔を出します。珍しい冬虫夏草の一種ハチアブラゼミクケ(花油蟬茸)や、変形菌の一種サビムラサキホコリ(錆び紫埃)などの粘菌類も雨を待つて成長します。そしてキクラゲ(木耳)の仲間は

ナギナタタケ(紫殿月茸)が、面に広がって、チャタマゴダケ(茶巾茸)が菌輪を描き、アクロツルタケ(養老茸)やイボテングタケ(疣天狗茸)が童話の世界に誘い、コウジタケ(麹茸)やニガイクチ(苦猪口)の仲間も発生します。草地にはピンタケ(匂い小紅茸)や色とりどりのカワリハツ(愛わり初)、また、白いツチカブリ(土被茸)が地面を持ち上げて顔を出し、小さなギツネ

ノボボカサ(雲の囃子)や、食パンのような形のノウタケ(脳茸)、お饅頭のようなセシヨウロ(偽松露)の仲間が可愛らしい姿を見せてくれます。苑内の落ち葉や落葉を集積している小山には白い大型のツブカラカサタケ(糞唐草茸)が大量発生し、落ち葉を一緒に分解していきます。倒木や切株にはウツボホコリ(雲霧茸)、カワラタケ(瓦茸)、スエヒロタケ(哀草茸)、マサヤタケ(豆精茸)が観察られます。また、赤松の根元にオレンジ色(成長期)のカイメンタケ(海綿茸)が発生します。季節限定の冬虫夏草、クモクケ(蜘蛛茸)も苑内の樹木などで観察できます。「南無熊楠」の研究で有名な変形菌もウツボホコリ、シロウツボホコリ、アオモリホコリ、マオモリホコリなど、目を凝らして観察すれば眼や鼻に出現していることに気がつくでしょう。このように夏にも「きのこ」は

京都御苑管理事務所 普及指導企画官

色を傘を広げます。小さな黄色い漏斗型をした傘を持つヒナアンズタケ(雛杏茸)、時には大型のアンズタケ(杏茸)も緑の草陰に現われます。梅雨の長雨後の苑内を歩くと一夜で身を溶かすヒトヨタケ(一夜茸)の仲間が傘を黒く溶かして黒インクのような液体となつて足元に滴り落ちていく姿に遭遇します。小さな透き通るような薄い傘を持つツブツブヒメヒガサヒトヨタケ(小粒姫目傘一夜茸)もその仲間です。傘の裏がヒダではなく、管孔という丸い穴のイグチ(猪口)

の仲間が発生するものもこの時期です。偽つくと瞬間に鮮色に変化するイロガワリ(色変わり)、白い乳液を出すチチアワタケ(乳持茸)、黄色いヒダがあるのにイグチ類のきのこにヒダタケ(黄髮茸)の仲間も顔を出します。珍しい冬虫夏草の一種ハチアブラゼミクケ(花油蟬茸)や、変形菌の一種サビムラサキホコリ(錆び紫埃)などの粘菌類も雨を待つて成長します。そしてキクラゲ(木耳)の仲間は

ナギナタタケ(紫殿月茸)が、面に広がって、チャタマゴダケ(茶巾茸)が菌輪を描き、アクロツルタケ(養老茸)やイボテングタケ(疣天狗茸)が童話の世界に誘い、コウジタケ(麹茸)やニガイクチ(苦猪口)の仲間も発生します。草地にはピンタケ(匂い小紅茸)や色とりどりのカワリハツ(愛わり初)、また、白いツチカブリ(土被茸)が地面を持ち上げて顔を出し、小さなギツネ

ノボボカサ(雲の囃子)や、食パンのような形のノウタケ(脳茸)、お饅頭のようなセシヨウロ(偽松露)の仲間が可愛らしい姿を見せてくれます。苑内の落ち葉や落葉を集積している小山には白い大型のツブカラカサタケ(糞唐草茸)が大量発生し、落ち葉を一緒に分解していきます。倒木や切株にはウツボホコリ(雲霧茸)、カワラタケ(瓦茸)、スエヒロタケ(哀草茸)、マサヤタケ(豆精茸)が観察られます。また、赤松の根元にオレンジ色(成長期)のカイメンタケ(海綿茸)が発生します。季節限定の冬虫夏草、クモクケ(蜘蛛茸)も苑内の樹木などで観察できます。「南無熊楠」の研究で有名な変形菌もウツボホコリ、シロウツボホコリ、アオモリホコリ、マオモリホコリなど、目を凝らして観察すれば眼や鼻に出現していることに気がつくでしょう。このように夏にも「きのこ」は

京都御苑管理事務所 普及指導企画官

御苑の南東に位置
テニスコート、運動
場の傍にあります。
主に喫茶・軽食・
どん類のメニューで
業しています。
運動された後お仲
どともに食事をしな
ら、ゆっくりミーテ
ングなどされてはい
がでしうか？
(財)国民公園協会
京都御苑
業務第二課